

第3回「知事と県民のつどい」概要
 開催テーマ「奈良の観光振興について」
 日時 平成23年10月28日(金)14時～16時
 会場 法隆寺国際高等学校 大会議室

意見①	「田舎に泊まろう！！～誰も知らない飛鳥の魅力～」 法隆寺国際高等学校歴史文化科 2年生のグループ(6名)	
意見②	「大和野菜の取材を通じて感じたこと」 智辯学園高等学校普通科 1年生のグループ(5名)	
意見③	「西の京地区の観光推進 ―地域力を生かして―」 西の京高等学校地域創生コース 2年生のグループ(6名)	
意見④	「「ゆるい」をキーワードに、奈良の観光を見直す」 奈良女子大学附属中等教育学校普通科 5年生のグループ(3名)	
意見⑤	「文房四宝～奈良を墨々まで体験しよう～」 法隆寺国際高等学校歴史文化科 3年生のグループ(3名)	

質疑①	伝統産業について 法隆寺国際高等学校歴史文化科 3年生	
質疑②	南部地域の活性化について 法隆寺国際高等学校歴史文化科 2年生	

	まとめ	
--	-----	--

意見①	<p>「田舎に泊まろう！！～誰も知らない飛鳥の魅力～」 法隆寺国際高等学校歴史文化科 2年生のグループ(6名)</p>
	<p>奈良県の宿泊者数、観光客数が低迷している原因は、大阪・京都とセットで観光されることが多いこと、奈良には気軽に利用できる店が少ないことだと思います。 そこで私たちは、「住・体験・食」に着目した飛鳥の観光ルートを提案します。具体的には、「飛鳥ならではの宿に泊まることができる」、「発掘体験・農業体験ができる」、「古代ガラス作りを体験できる」、「飛鳥ならではの食材を食べることができる」観光ルートです。 神社・仏閣を「見る」奈良だけではなく、奈良でしかできない体験を増やし、観光客の皆さんに「体験」しながら奈良を感じてもらうことで、奈良の観光が活性化すると思います。</p>

回答①	観光局長
	<p>奈良県では、通過型観光中心であることが課題となっており、ご意見は宿泊型観光の創出につながると思います。また、様々な観光要素を高める地域ぐるみの取り組みは重要で、発掘体験や農業体験等、観光と驚きのある非日常の体験を県内各地でできるようになると、奈良県観光の魅力が増すと思います。 今日のご意見は大変参考になりましたので、ポスト1300年の観光施策に取り入れていきたいと思ひます。</p>

教育委員会次長
<p>奈良県内では、発掘成果の現地説明会は行っていますが、ご意見をいただいた発掘体験は行っていないのが現状です。全国的に見れば、発掘体験を行っている市町村もありますので、遺物の接合、復元等について、どこまで対応できるかも含めて、具体的に検討していきたいと思ひます。</p>

意見②	<p>「大和野菜の取材を通じて感じたこと」 智辯学園高等学校普通科 1年生のグループ(5名)</p>
	<p>私たちは、学生記者取材報道企画という新聞社の企画に参加し、大和野菜の取材をしました。そのときの取材を通じ、大和野菜をもっと知ってもらいたいと思い、大和野菜を活用した観光を提案します。具体的には、奈良県らさが詰まった食べ歩きコースをつくることにより、奈良の「食」に興味を持ってもらう『うまいもん』巡り旅、奈良の観光の軸となる歴史的建造物等を巡り、大和野菜を使った料理を食べてもらう「歴史と料理を味わい尽くすツアー」、奈良の食材を使った料理の腕を競い、観光客にも楽しんでもらう「大和野菜B級グルメ大会」です。</p>

回答②	農林部長
	<p>大和野菜を消費してもらうためには、レシピを開発し、家庭やレストランに配布する等の工夫が大事で、奈良県では大和野菜のPRパンフレット作成やホームページへの掲載に取り組んでいます。また、奈良の歴史と食を組み合わせ県外に発信する「奈良カフェ」を、昨年から東京都、福岡県で実施しています。</p> <p>そのほか奈良フードフェスティバルの実施や眺望の良いレストランの認定にも取り組んでいるところで、今後は眺望の良いレストランのツアー化等についても進めていきたいと考えています。</p> <p>また、先日、ミシュランガイドに奈良県から25店舗が掲載されましたが、その中で、大和野菜を使っていたのは4店舗ということですので、これからも奈良のいろんな食材を使ってもらえるような取り組みについても進めていきたいと思えます。</p> <p>このような、「食」と「観光」を組み合わせた取り組みによって、県内、県外の人に奈良の良さを知っていただきたいと考えています。</p>

観光局長
<p>「食」は観光を変えるポイントで、特に外国人観光客は「食」を目指して観光に来る傾向があります。奈良には、世界遺産、国宝・重要文化財等世界一流の観光素材がありますが、「食」でも一流の観光地を目指すことで、観光の総合力が強化され、滞在型周遊観光につながっていくと考えています。</p>

意見③	<p>「西の京地区の観光推進 ―地域力を生かして―」 西の京高等学校地域創生コース 2年生のグループ(6名)</p>
	<p>私たちは、観光における西の京の特色を、「いやしをとりもどす空間と時間の提供」「アートなまちづくり」だと考えています。このような地域資源を活用した体験型プログラムを提案します。</p> <p>例えば、ツーリストインフォメーションでは、地元ボランティアガイドの常置、地元目線の観光マップの配布、伝統工芸の実演販売等、地元の協力を得ながら運営します。インパクトのあるデザインや便利な立地条件などを考慮すると、「がんこ一徹長屋」を活用するのが適切かと思えます。</p> <p>具体的なツアーの内容についてですが、Aコースとして「カルチャー・手作り体験型のがんこ一徹長屋観光」、Bコースとして「ヒーリング・参加体験型の三松禪寺の座禅体験」、Cコースとして「参加体験型の大池周辺サイクリング・写真撮影・バードウォッチング」、土日限定コースとして「秋篠川の川下り体験・障がいを持つ方々によるアート展示施設の見学」など、薬師寺や唐招提寺観光後に、観光客の滞在時間に応じて自由に組み合わせることのできるものです。川下りでは周辺寺院に拝観時間の延長を働きかけ、ライトアップ、夜の川下り、夜の市などを実施することで宿泊者数増加にもつながります。</p> <p>大池周辺のゴミ削減や遊歩道の整備などの課題はありますが、これらの課題を改善したら、もっと大きな観光資源になると考えます。さらに、初めて来られた方でもすぐに歩けるような具体的な所要時間や距離などをまとめた、地元目線の観光マップを地域の方と一緒に作成することを検討しています。このことにより、地域の人々のつながりが生まれ、その中で観光の活性化につなげていけたらよいと考えます。</p>
回答③	観光局長
	<p>寺社仏閣を中心とした有名なものだけの観光ではなく、地域の方と一緒に案内地図を作成したり、地域の方が観光案内をすること等で、地域を見直し、地域を誇りに思うことは大切であり、今日意見いただいた内容は大切なポイントだと思います。ご意見いただいたことが、県内のどの地域でも実現すれば、地域の魅力づくりにつながり、奈良の新しい観光スタイルができると思います。</p>

意見④	<p>『ゆるい』をキーワードに、奈良の観光を見直す」</p> <p>奈良女子大学附属中等教育学校普通科 5年生のグループ(3名)</p>
	<p>奈良の観光客の平均年齢は高めです。私たちは奈良の観光活性化のためには、若い世代をターゲットにした、優しい雰囲気「奈良らしさ」「時間がゆっくりとながれる」という意味で「ゆるい」をテーマにした観光地をめざすことが必要と考えています。具体的には、「インフラ整備」「ゆるマップの作成」「インフォメーションセンターの改良」の3つを提案します。</p> <p>まず「インフラ整備」については、建築規制等がある奈良駅周辺から少し離れた場所にホテルや遅くまで開いている店をつくること。また、奈良の観光では歩くことが多いので、トイレ設置、歩道整備、情報収集のための休憩所、集合場所の整備を進めます。</p> <p>次に「ゆるマップの作成」では、奈良町周辺の穏やかな雰囲気のある「ゆるCAFE」を広報し、さらにテーマごとの案内地図を作成することで、「ゆるさ」を求める若者と「休憩」をもとめる従来の年齢層を集客します。</p> <p>最後の「インフォメーションセンターの改良」については、今ある案内所を休憩施設として利用してもらうために、ゆるい雰囲気の休憩スペースをつくり、若者を呼び寄せるとともに外国人観光客にも広く受け入れられる「奈良らしさ」を残した案内所に改良します。さらに奈良在住の高校生や大学生ボランティアなどが奈良時代の衣装を着て、「動く案内人」として活動することも提案します。こうすることで、「観光案内所は堅苦しい」という先入観を取り除くことができると思います。</p> <p>このように、「シブい」という奈良の印象を「ゆるい」に転換し、今の良さを生かしながら、新しい発想を取り入れることによって、奈良の観光を見直してみたいと思います。</p>
回答④	観光局長
	<p>奈良の観光客は、比較的高年齢層の方が多いたりますが、多様な層に関心を持ってもらえるような観光地にしていかなければならないと考えています。奈良にある、「時間がゆっくり流れる」「リラックスできる」という意味で「ゆるい」というイメージを長所として伸ばしていきたいと思えます。「シブい」ものから「ゆるい」ものという方向が「奈良らしさ」につながると思いますので、県としても研究していきたいと考えています。</p>
	<p>産業・雇用振興部長</p> <p>奈良県は、平成22年3月末の宿泊施設数では全国44位、客室数は全国47位である一方、平成11年から平成21年にかけてのホテル数の伸び率は全国で30%増であるのに対し、奈良県では366%の伸びとなっています。宿泊施設に関する県の取り組みとしては、県営プール跡地へのホテル誘致があり、平城宮跡、西の京、東大寺といった観光の中心地と比較的近い距離にありますので、交通ターミナルの整備と一体的に行っていきたいと考えています。また制度融資や税の優遇措置なども行うとともに、もてなしの充実を図る取り組みもおこなっているところですが、今後もこのような取り組みを進め、奈良で宿泊いただけるような環境の整備を進めていきたいと考えています。</p>
	<p>まちづくり推進局長</p> <p>多くの観光客が訪れる奈良公園については、これまでも歩きやすい歩道の整備やわかりやすい案内看板の設置などを進めてきましたが、さらなる魅力創出、移動環境の改善は重要だと考えています。</p> <p>さらに、東大寺、春日大社を含めた広い意味での奈良公園について、多様な世代に訪れてもらえるように、観光客の立場にたつて、基本的な考え方やインフラ整備の方法等について整理し、「(仮称)奈良公園基本戦略」をつくっていかうと考えています。</p> <p>他の観光地についても、最寄り駅から観光地に至る観光経路について地元住民等と一緒に点検し、地域の課題の「見える化」を行い、インフラ整備を進めていきたいと考えています。</p>

意見⑤	<p>「文房四宝～奈良を墨々まで体験しよう～」 法隆寺国際高等学校歴史文化科 3年生のグループ(3名)</p>
	<p>奈良のすばらしいもののひとつとして「伝統産業」がありますが、伝統産業は、生産量の低下、職人の高齢化、後継者不足で存続の危機に陥っています。そこで私たちは、奈良発祥の「文房四宝」、つまり墨、筆、硯、紙に注目した、伝統産業を活性化させるための提案をします。具体的には、奈良でしかできない「文房四宝」の作成体験を取り入れた観光プランの作成、絵手紙講座や書道講座の開催、化粧筆など伝統産業を活用した新商品の開発による新たなマーケットの開拓、書道などの学習時間を増やすとともに、県内小中学校を対象に、地域を知る体験学習として伝統産業や特産物に触れて学ぶ「ならTIME」の時間を設けることです。「ならTIME」では、高校、博物館、大学などとの連携も行います。</p> <p>さらに伝統産業育成のため、体験型観光での観光ボランティアの実施、公開講座・フォーラムの開催等の実施とともに、地域での人材育成を積極的に促していきたいと思ひます。これらの取り組みにより伝統産業が活性化してほしいと思ひます。</p>

回答⑤	観光局長
	<p>伝統産業体験は、「文房四宝」が東アジアから仏教とともに伝わってきたものであること等、歴史的背景も知ることができる「知的観光」につながると考えます。奈良県の観光の課題は、オフシーズンを解消することであり、体験型観光は通年型観光を目指す上で大切だと思ひます。また、伝統産業を体験しながら巡るといふことは、「奥深い奈良の観光」や「宿泊型観光」につながると考えています。体験型観光にはスポーツイベントの誘致などありますが、県における「体験型観光」にどのようなものがあるか、再度見つけ直したいと思ひます。</p>

産業・雇用振興部長
<p>県では、「伝統的工芸品」に16品目、25人、3団体を指定しており、伝統工芸体験型工房を増やす取り組みとして、体験型工房の現況調査結果をインターネットで発信するとともに、体験工房の開設を目指す事業者への支援を行っています。今後ともこのような取り組みを進めていきたいと考えています。</p>

教育委員会次長
<p>奈良の歴史から未来を学ぶ「ならTIME」のような取り組みについては、平成25年度からの県立高校の入学生に対して、週1時間程度、奈良についての学習をすることになっています。また、今年度から、こういった授業を行うための資料を作成する予定です。</p>

総括回答
①～⑤

知事

いただいたご意見は、具体的で着眼点も良かったと思います。実現できるものについては、新たな取り組みの予算化や既存の取り組みの改善などを、実現できないものについては、その理由を高校生の皆さんに、後日回答したいと思います。

今日のご意見には、観光産業分野に関する課題への対応方法について、体系的に統計をとり、お客様の気持ちをくんでサービスするという、マーケティングの考え方が入っていたと思います。お客様の気持ちには、言葉や意識となって明確に現れる「NEEDS」と、言葉や意識としては明確に出ていないけれども実現すると良いと考える「WANTS」がありますが、繰り返しお客様の「WANTS」を満足させていくことが、良い観光地につながると考えています。

ご意見に共通していることは「あるもの」を利用することで「NEEDS」や「WANTS」の充足に結びつけること、奈良観光の弱点である「食」「動線」「土産」についても明確に指摘されていることだと思います。

また、観光案内について、「奈良らしさ」を自覚して提供することを具体的に提案されており、私も奈良にしかないものを提供することで、他地域と差別化を図ることは大切だと思います。

奈良らしさということでは、歴史は奈良の大きな資産だと思います。奈良の歴史には国際性があり、自ずと独自性があるものですので、大切にしなければいけないと思います。来年は「古事記編纂1300年」ですので、興味を持っていただきたいと思います。

「体験型サービス」については、提供するとお客様に喜ばれることが多いのですが、どのように実現していくかを検討する必要があるかと思っています。

遊歩道や集合場所等のインフラ整備については、多様な年齢層、観光客に喜ばれる休憩所が奈良には少ないことが課題だと思います。遊歩道などをきれいにするという点では、県の費用負担で、通学路や遊歩道に花壇を整備し、学校や地域でメンテナンスをしてもらうことができれば、地域に根付いた、いい場所ができると思います。

今日いただいたご意見については、他の高校生にも知ってほしいと思いますので、ジャーナリズムを検討します。また、今日のような意見交換だけではなく、高校生が議員役となって県職員に質問する模擬議会についても、議会事務局や県会議員の方々のお許しがいただけるなら検討したいと思います。

本日は有益な話をたくさんいただき感謝しております。

質疑①	伝統産業について
	法隆寺国際高等学校歴史文化科 3年生
<p>私たちは伝統産業が奈良の魅力のひとつだと思いますが、知事は「奈良の魅力」は、どのようなものと考えておられますか。</p>	

回答①	知事
<p>奈良の伝統が「産業」として売れるかという点、厳しいのが現状ですので、伝統の歴史に基づいたもので、今売れるものは何かを考えると新しいアイデアが生まれるように思います。例えば、伝統産業としての筆は奈良が発祥ですが、広島県の人々が化粧筆にしようというアイデアをもって、今や世界をマーケットにしています。</p> <p>居心地の良い部屋にするために、奈良のさらしとか蚊帳の素材をカーテン地にする等、奈良の暮らしを考えて産業を発達させるのも考え方の一つであります。いろいろな発想でチャレンジをする起業家も育てていきたいと考えています。</p> <p>独自のもの、他でつくっていないもの、新しいものをつくらないと売れません。伝統というのは、新しいものだと思っています。</p>	

質疑②	<p>南部地域の活性化について</p> <p>法隆寺国際高等学校歴史文化科 2年生</p>
	<p>私たちは、奈良県の南部地域に注目が集まってほしいと思い、明日香にスポットをあてましたが、知事は南部地域の活性化について、どのような考え方を持っておられますか。</p>

回答②	知事
	<p>台風12号災害被災後の南部地域をどのように復興していくかということは、県の大きな課題です。</p> <p>生活をしていくためには、雇用と所得が大事ですが、県の南部に住む方々が、地元だけで生計をたてることは難しいと思います。南部地域に住んで、麓に行く買い物ができ、病院があり、働く場所もあるという生活スタイルを可能にするためにも、京奈和自動車道や、これと南部を結ぶ、国道168号等を高規格なしっかりとした道路に整備することが重要だと考えています。道路をつくって、麓で雇用を発生させるということを、県政の基本方向にしたいと考えています。</p>

まとめ	知事
	<p>高校生の皆さんが、社会的分野に関心をもって、ご意見を発表いただくことは大変すばらしいことだと改めて思いました。</p> <p>県では芸術や文化も大事にしたいと考えています。文化芸術活動を盛んにして、地域の改善や地域の振興を図ることが、体験や観光につながる面があると考えており、今日のご意見にもそのような考え方が含まれていたように思います。</p> <p>皆さんが、勉強だけでなく、スポーツ等いろいろな経験をされれば、良い将来が生まれると思います。今後のご活躍を期待しております。</p>